

なぜヒナを拾っちゃダメなの？

著者 一日一種
(イラストレーター・漫画家)

巣立ちびなは弱々しく見える

巣立ち直後の野鳥のヒナは、飛んだり食べ物をとったり、敵から逃げたりすることがまだうまくできません。それらの生きていく術を、まさに親鳥から学んでいる時期なのです。

巣立ち直後の
ヒナの特徴
(スズメの場合)



毎年多発するヒナの誤認救護

弱々しい巣立ちびなを見ると、多くの人々は善意で助けてあげようとします。特に毎年5～8月ごろの鳥の繁殖期になると、役所や動物病院に巣立ちびなが頻繁に運ばれてきます。それらのほとんどが助ける必要のない誤認救護です。

身近な
巣立ちびな



ヒナがたとえ他の野生動物に食べられてしまっても、それは自然の摂理です。捕食者にとっては警戒心が薄い野鳥のヒナは貴重な獲物でもあります。

もし対応に困ったら？

自転車にひかれそう、などの場合は、できるだけ直接触らずに近くの茂みに誘導してやるという手もあります。

もしもヒナが自然の摂理以外の原因でケガしている場合など、対応に迷うときは、自治体の担当部署に連絡してみましょう。(自治体によっては傷病鳥獣の救護を行っています)

